

# 平成30年度島根県立農林大学校学校評価

●教育の目的  
次代の島根県の農林業をリードする農業者及び林業技術者の養成

●基本方針  
・高度な農林業技術と専門的知識を習得し、経営管理能力を養う。  
・広い視野に立って農林業を考え、技術革新、経営改善に積極的に取り組み、新しい農林業を創造する能力を養う。  
・先見性を持って流動的な社会情勢に対応するための分析力、判断力、行動力を養う。  
・農林業生産及び農山村社会におけるリーダーとして必要な指導力、企画力、調整力を養う。

●重点目標  
①意欲ある学生の確保  
②教育内容の充実、強化と実践力の養成  
③進路指導の充実と進路意識の高揚

No.1 評価 A:達成した B:概ね達成した C:やや達成していない D:達成していない

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント(外部評価委員)
教育目的及び基本方針・重点目標	教育目的及び基本方針・重点目標の職員及び関係者への周知	教育目的、基本方針、重点目標が周知されており、それを意識した取り組みが行われているか。	オープンキャンパス・高校訪問、関係機関会議等で周知を徹底している。	・職員会議で協議、周知している。 ・オープンキャンパス、学校説明会等で、本校の目標を十分に説明している。 ・学生募集要項に専修学校ではないことを記載し、周知を図った。	A	○常に重点目標を意識した取組を行う。	
学校運営	適正で計画的な予算執行	適切な予算執行がされているか。	優先順位をつけて適正に執行している。	・限られた予算の中で、常に必要性、緊急性を考慮しながら執行に努めた。 【総務】緊急性の高いものは本庁協議を行い、新たな予算確保を行うようにした。	A	○効率的な予算執行に努める。	
	情報・課題の共有化	運営会議・スタッフ会議、専攻内打ち合わせ等で情報の共有化が図られているか。	学生指導面での情報は、できる限り早い段階で伝達するようにした。	・毎週月曜日の職員朝礼や専攻間での情報共有化を徹底している。 ・各専攻毎の朝礼、専攻内打ち合わせで情報共有化を図っている。	A	○引き続き情報共有を迅速に行う。	
	個人情報の管理	個人情報等の管理が適切に行われているか。情報漏えいがないか。	学生相談室の活用徹底	・学生のプライバシー保護のため、学生相談室の活用徹底。 ・ <u>学生の個人情報を記した回覧の目隠し対応を徹底。</u>	A	○引き続き個人情報の管理を徹底する。	・近年、学校関係の個人情報漏えい事故は、外部記憶媒体(USBなど)の紛失事故が多数を占めている。外部記憶媒体の取扱には、慎重かつ厳格なルールを取り決め運用してほしい。(教職員・学生とも) ・学生同士の気になる事案などがあれば、目を光らせて対応を。
	職員研修の充実、職員の資質向上(体系的な研修、校内研修)	国、県、農業大学校協議会等の主催研修への派遣は適切に行われているか。校内で必要な研修会が開催されたか。	職員の技能検定資格取得。	・ <u>職員研修の実施。(発達障がいのある学生への支援について9/13)</u> ・西日本ブロック研修会への参加。(野菜、花き、果樹) ・ <u>指導力強化発展研修会への参加(1/23~25)(13名)</u>	B	○必要な職員研修については、要望を取り入れながら実施していく。	
情報発信	ホームページ、フェイスブックその他の活用	農大生活、行事、入試情報等計画的に紹介するなど、積極的に農大のPRを行ったか。各専攻毎にホームページ、フェイスブックの更新を月1回以上行ったか。	フェイスブック広告活用によるHPへのアクセス増加。フォトしまねへの女子学生掲載。 H29年度:ホームページ更新月3回程度、フェイスブック投稿年間70回以上。 農林大なんでもQ&A作成(HP掲載)。	・ホームページ「学生の声」継続掲載。 ・「農大の動き」を毎月発行し、ホームページへ掲載、県内高校、関係機関、法人協会へメール発信。 ・ <u>県政広報番組「吉田くんなるほどゼミ」で学生の資格取得映像発信。(5月)</u> ・ホームページ更新月3回程度、フェイスブック投稿年間55回(12月末現在)。 ・林業科では、独自にブログを活用し日々の授業や実習、各種行事の様子を情報発信。 ・タブレット端末の活用状況が少ない。 ・ <u>農大祭で「お客様アンケート」を実施、次年度への参考とする。</u> ・ <u>農林大なんでもQ&amp;A、学生の声をHP掲載:農林大情報へのアクセス数:年間3,174件</u>	B	○情報発信の担当者を決め、投稿に力を入れていく。 ○学生からの発信、来場者の声などをさらに取り入れる工夫をしていく。 ○タブレット端末の有効活用を図る。	・情報発信により、どのような成果が得られるかの分析が必要。より効果的な情報発信を。 ①県内や関係機関向けで地元への発信→地元新聞、TV、ケーブルTV ②県外・国外など不特定多数向けで地元外への発信→HP、FB、SNS ・関係者や第三者に対するモニター、アンケートの実施、分析で課題が見つかる。 ・ホームページ・フェイスブックは、いかに最新情報をタイムリーに発信するかにかかっている。更新頻度を更に高めることを望みます。 ・島大及び中学校にも発信した方が良い。
学生募集	情報提供、説明会、高校訪問、オープンキャンパス、報道機関の利用等	様々な手段を講じて農大の情報提供を行い関心を高めたか。定員以上の応募者があったか。	前年オープンキャンパス4回実施、参加総数47名。 DVD(動画・写真)活用。 入学試験受験者減少(前年比80%)	・ <u>オープンキャンパス4回実施、参加総数72名であった(前年比153%)。</u> ・ <u>県内高校全校訪問:49校(昨年41校)、2回目:16校(オープンキャンパス参加高校)、(受験予定者があり、石見養護学校も訪問)、</u> 高校ガイダンス参加:8回(12月末現在)、農業高校との連携会議参加:6回。 ・ <u>養護学校生徒の体験受け入れ:1名(2年間で22日間)</u> ・花き専攻への募集を目的とした ・林業科への募集を目的とした高校訪問を実施し進路指導担当者の理解を得た(県内16校)。 ・ <u>花き専攻、林業科出前講座を開催し、入学を促した。</u> ・農林大概要説明時にDVD(動画・写真)を活用して視覚的に訴える工夫をした。 ・ <u>入学試験受験者は増加。(前年比119%)36名→43名</u>	B	○オープンキャンパス実施回数は引き続き4回とする。 ○PR用パワポを作成し、あらゆる場面で活用していく。 ○特に園芸関係の学生募集に力を入れる。 ○出前講座などによる入学確保対策を強化する。	・オープンキャンパス、受験者増の成果があり良かった。成果の要因は何かを分析することで、次年度の学生募集に活かしてほしい。 ・オープンキャンパス、入学試験受験者が増加傾向にあるのは、これまでの取り組みの成果だと評価できる。さらに、県内高等学校との連携を強めていただきたい。 ・県内高校49校全校訪問、2回目の訪問などの努力に敬意を評す。年4回県立高校の校長会があるので、農林大のPRを是非行ってみたい。 ・U・IターンフェアやJA広報誌を活用して学生募集をしてはどうか。 ・農福連携が進んでいるが、今までの縦割りではなく横の連携をとってほしい。

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント(外部評価委員)
学習成果 (指導)	学生の基礎学力の定着、授業改善、授業研究、授業を実施するにあたっての共通事項の実践	分かり易い授業が行われたか。学生による授業の肯定的評価が上昇したか。定期的な基礎学力テストが実施され、それに伴うプリント学習の充実が図られたか。	共通課題テスト(年3回)と補習実施。定期的な補習体制(個人別・領域別)。授業実施研修、試験問題作成研修会。	【全体】 <b>入学前課題による、新入生の基礎学力把握。</b> 1・2年生全員に国語、数学の基礎学力確認テスト実施。 ・ <b>図書委員活動の開始(毎月、図書委員が大田市図書館より50冊を借り食堂へ配置)→委員以外の関心薄い。</b> 【農業科】 ・学生による授業評価を職員・外部講師へフィードバックしている(年1回)。 ・学年毎に曜日を決めて定期的な補習体制(個人別・領域別)を実施(延べ24日、27時間)。 ・就職試験対策(JA・公務員)で参考資料配付、指導。 【林業科】 ・農業科と同じ共通課題のテストを実施。 ・試験等で理解が不十分な点があると認められる場合、補習を行うなど学力の定着に努めた。	B	○新聞記事の活用による授業や試験問題の作成研修を取り入れる。 ○図書委員を交代制にし、本に触れる経験を増やす。	・市立図書館からの団体貸出に対しての学生からの評判はどうか。 ・学生の就農状況は、自営就農より雇用就農を希望する傾向にあると聞く。自営と雇用では、就農形態が大きく異なるため、それぞれにあったカリキュラムを用意する必要があるのでは。 ・経済活動や社会の動きなどを承知した上で現場へ出てほしい。学習の場を。 ・人の前で自分がアピールできるように精神面、心のメンテナンス強化を。 ・JA改革など動きが活発化、機械操作も重要だが、数学や国語の能力も強化を。 ・あすてらすでも図書やDVDの貸出を行っているの、是非団体登録を。若者向けコミュニケーション、生涯に渡ってのキャリアデザイン、一般教養的なカリキュラムの時間拡充を。 ・高校ではICT化が進んでおり、各教室にプロジェクター、タブレット配置し、グループ学習に力を入れているので、農林大でも検討を。 ・GAP関連の記述がないが、美味しまね認証についても全品でとるなど第三者認証を強化しては。 ・卒論発表会など案内があれば、出身校の先生方は喜んで参加されるのでは。 ・卒業前ではなく、1年生の時から農業機械メンテナンス及び場内での自動車操作を指導してほしい。
	栽培から販売までの能力育成、学生の理解度・技術力・管理能力・経営能力の向上、実習の充実	専攻毎に学生に対し自己目標を設定させ定期的に評価できたか。第三者(農家留学等)による学生の評価を有効に活用できたか。	各専攻毎の特色に合わせた実践教育をすすめている。農機メンテナンス研修、卒業前の農機実践研修など実践的技術指導を実施。	【全体】卒業前の農業機械メンテナンス、操作実践研修の実施(2月)。稲作研修実施(2月)。 ○ <b>農業科全員がロボットトラクター表演研修参加(11月)。</b> 【有機】学生は実習において担当作物の栽培計画に従い、自ら作業内容を考え実践している。 <b>ほかし肥や踏み込み堆肥の作成</b> など有機栽培独特の技術も習得した。 【野菜】1年生の6月以降に主な担当品目を決め、計画作成、栽培、出荷を行っている。この経験をほかし、卒業課題をに取り組む。ただし、 <b>学習内容が偏らないよう担当品目以外にも幅広く実習</b> している。機械作業やハウス修繕等についても、できることは限られるが、行っている。栽培前に、どのような作業や資機材の準備が必要か、自主的に考えられるよう、はたらきかけている。 【花き】 <b>1・2年生をとおして同一品目を専門的に研究して卒論に取り組む</b> 他、生産プロジェクトを通して、多品目の花き生産を経験した。また、フラワーアレンジ技能取得を行い、花き生産から利用まで学べるカリキュラム内容としている。 【果樹】就農後必要になる現場での実践技術の習得を重点に置き、ハウスや果樹棚等施設の修繕技術の習得を図った。果樹は収穫までに年数を要することから、 <b>ジョイント栽培(柿、梨)の導入により、早期成園化と省力栽培技術</b> を習得する。 【肉用牛】学生に肉用牛飼育管理の基礎技術を習得させるとともに、子牛の発育成績や肥育牛の枝肉成績を分析、評価させ、飼育管理体系の <b>改善に向けた手法をチームワークとして実践</b> 。 【林業】機械操作実習では、個々の技術のレベルアップのため、昼休み・放課後等を活用することにより、 <b>学生個々の操作時間を増やす</b> よう努めた。	B	○県スマート農業研究会との連会を図り、スマホ、ICT利活用の方法を検討する。 ○就職先決定後は、それぞれの就職先で即戦力となるような実践的教育を個別に実施する。	
魅力ある教育活動	農家留学、地域農業実習等	学生の成長に資するものになっているか。農家留学・地域農業実習を各専攻4回以上、学校全体で24回以上実施したか。	即戦力の学生が求められるため、短期、長期の体験実習など実践的な学習の強化を図っている。校外学習:学校全体で34回実施。	【全体】 ・ <b>自営就農学生確保のためのカリキュラムについて見直し、検討中。</b> ・農業科全体の <b>校外学習</b> は14回実施。地域農業実習を各専攻とも3回以上実施し、 <b>学校全体で40回以上実施</b> 。 ・2年生の約1ヶ月間の農家留学は9月を中心に実施。雇用就農希望先を中心に、先進的な技術を有する農家等を選定し、進路対策に結びつけている。 【有機】専攻独自の課業である <b>1年生の「地域有機農業体験実習」(6日間)</b> では、有機農業を実践する農家体験を実施し、有機栽培の考え方や、有機栽培技術の基本を学んだ。また地域農業実習では、 <b>サテライト校(有機農業実践農家)などへ向かい現地事例</b> を学習した(年3回)。 【野菜】地域農業実習として、 <b>自営就農した卒業生ほ場や雇用就農先候補企業において</b> 実施(3回)。 【花き】地域農業実習では、農家見学だけでなく <b>作業実習(まくの作業)</b> にも取り組む他、花き市場、卒業生の就業現場も視察した。また、フラワー・イン・シマネへの参加や鳥取県立農林大学校との交流会を開催し、学習意欲向上に繋がった(4回実施)。 【果樹】地域農業実習では、 <b>自営就農の卒業生、ぶどう・柿産地、集落営農での園芸品目の導入</b> を中心に3回実施。 【肉用牛】地域農業実習として5回実施し、その中で <b>畜産研究課題研修や家畜人工授精師研修会などに参加して全国レベルでの最前線の情勢や技術を学び</b> 、広い視野を育む取り組みとした。 【林業】 <b>関係機関や森林組合等の協力を得て</b> 現地視察等の実践的な教育を行った。また江の川下流域活性化センターの協力により、卒業生のいる事業体で意見交換を行った(5回)。	A	○自営就農に向け、総合的、複合的に学べるカリキュラムの検討と実施 ○校外学習により農林業技術・経営の視野を広げ、実践的な学習ができる環境を整えていく。	
	担い手育成研修、実践研修、教員研修、森林施業プランナー研修、林業エンジニア研修等	受講者の技術や能力の向上に資することができたか。担い手研修・実践研修受講者の就農率が8割を超えたか。	担い手研修募集ハンドレットのリニューアルH29年度社会人研修生8名の就農率100%農福連携研修(野菜・果樹指導員研修)を実施(参加者5名)	【JAグループとの連携】 <b>新規就農者育成のための園芸ハウス設置について</b> 計画(JAより寄贈) 【社会人研修修了者】担い手育成研修3名、有機実践研修6名、野菜実践研修3名、 <b>研修生就農率100%</b> 。(以下詳細) ○(担い手育成研修)野菜、花き、果樹部門で各1名受講中。講義と実践指導で課題解決を図っている。 <b>研修生募集について、ケーブルTVでの放映依頼。</b> ○(有機農業実践研修)研修生6名が修了。全員が農業へ携わる予定。 ○(野菜実践研修)研修生3名のうち、2名が修了。1名は実家の作業の繁忙期と重なり、出席率が若干低かった。 【教員研修】 <b>県内小中高、養護学校から29名の参加</b> があり、農林業に関する体験の機会を提供した。 【林業エンジニア研修】林業事業体の要望も踏まえ、既就業者を対象とした研修を実施( <b>4コースに参加者23名</b> )。 【農福連携研修】 <b>福祉施設の指導員を対象とした研修会</b> を実施した。参加者 <b>9名(果樹、野菜)</b>	A	○園芸ハウスの設置と活用 ○研修生募集の周知PRを強化し、研修生確保を図る。 ○教員研修を通じて、農の魅力伝える工夫をする。 ○新規就農交流会などへも研修生の参加を促す。 ○研修の連携・充実を図る。	・農業研修への新規就農希望者は潜在的に高いが、情報がうまく届いていないのでは。 ・現代の農業事情や新しい農業へ期待が持てるような講座を単発的に行ってはどうか。 ・ドローンやIoT・AI技術を取り入れた農業について関係機関と連携して研究を進めていくことが必要になるのでは。 ・担い手の就農前研修に大きく貢献していることから、更に研修の充実をお願いします。
資格取得	難関資格試験の合格率向上、営農や就職に有利な資格取得の促進、資格取得特別講座等	学生は資格取得に意欲的か。農業技術検定3級全員合格、2級50%以上合格することができたか。	学生の取得意向を確認し、各種資格を取るよう仕向けている。H29年度:農業技術検定合格率:3級90%、2級18%、大特74%、けん引162%、フォークリフト60% フラワー装飾2級1名、3級3名、色彩検定3級1名。	【全体】 <b>農業技術検定(3級:86%、2級:25%)、大特63%、けん引41%、フォークリフト44%、狩猟免許(わな)53%。</b> 【有機、野菜、果樹】希望進路において求められる各種資格取得を推進した。 【花き】 <b>フラワー装飾技能検定3級1名、色彩検定3級1名、室内装飾技能検定3級1名合格。</b> 【肉用牛】就業に要する各種資格の取得を進め、特に、 <b>前講師養成講習会</b> や家畜人工授精師養成講習会に向けた事前実習を重点的に行った。 【林業】林業に必要な資格は取得できるようカリキュラムを組んでいる。資格取得に必要な知識や技術が不十分な学生に対しては、個別に補習し知識や技術の定着を図った。	B	○ステップアップできる資格取得については、入学当初から促していく。 ○雇用先や卒業生からの声を活用していく。 ○資格取得のための実習時間の確保を図る。	・昨年もコメントしましたが、新たに、ドローンの資格取得を支援してみてもは。 ・自動車のオートマ免許を取っている学生が多く、ミッション車での免許取得指導が必要。

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント(外部評価委員)
就農・就業支援(進路指導)	学生の進路に対する意識の醸成、動機づけの早期化、面談、アンケート、就農ガイダンス、就職セミナー	1年次後半の進路目標決定がされたか。多数の求人情報の収集がされたか。関係機関への情報提供は十分されたか。自営・雇用を合わせた就農・就業率が50%を超えたか。	5年間の離農率10%(県平均25%)、林業関係10%。 H29就農・就業率88%	【全体】 6月の就農ガイダンスに49名(88%)の学生が参加。就職セミナーを2回実施(5月、2月)。 1年次後半に進路目標が決定できるよう早めに面談を行っている。 <u>H30就農・就業率60%。→就農前の研修、JA就職が多くなったため。</u> 【各専攻】 ・1年次3月の三者面談を基に、学生との面談の機会を増やし、学生の希望する雇用就農・就業先での短期間のインターンシップや2年次9月の体験学習につなげている。 ・入学当初の交通安全・防犯講習の実施(4月)。 ・自営就農希望者へは、関係機関と連携し、施設の確保や就農計画樹立等に向け活動。 ・求人情報の提供は積極的に行っている。 ・林業科は就職先及び先進農林業者体験学習の学習先の参考とするため、1年次に林業労働力確保支援センターの主催する就職ガイダンスに参加(2月・1人が4社以上の情報収集)	A	○1年のうちから学生面談を複数回実施し、早い段階での進路検討を行う。 ○就農・就業へ結びつくようなインターンシップを早い段階から実施する。	・学生の声からも、就農する楽しさや仲間との継続的な交流の様子が伝わってくる。卒業後も学び続け、助け合う体制が維持できるような支援を継続してほしい。 ・農業法人、企業などの「求める人材」を十分に把握し、「求められる人材」づくりを。そして、法人、企業へのマッチングを極め細やかにお願いします。 ・学生からの悩み相談などはあるのかどうか。 ・林業科の学生に幅広い進路指導を進めたい。(例:造園業) ・1年次後半から随時インターンシップ(2~3日間)を行い、2年次の9月の体験学習に向けて学生の進路指導に努力されたい。
寮の自主的運営、農大祭等	学生が寮の運営を自分のこととして考えられているか。農大祭に学生が自主的に関わることができたか。	寮の一齐清掃日を定めているが、不十分。自治会、農大祭などで自主的な運営がみられるようになった。	・「整理整頓は生活の基本」を掲げ、寮清掃(月曜日昼休み)、専攻清掃(金曜日夕方)を徹底しているが、ごみの分別が徹底できていない。 ・農大祭や農林大市場などのイベントで、積極的な運営が見られるようになった。	B	○入学当初からごみ分別指導徹底 ○日常的に「あいさつ、時間厳守、整理整頓等マナーの徹底」による資質向上を図っていく。		
学生指導	防災・事故・外部対応等に対する体制の構築及び周知徹底、健康で健全な学生生活	危機管理に対するマニュアルは周知されているか。学生自治会主体の防災訓練が実施されたか。心身が不安定な学生への適切な対処がなされたか。	学生の交通事故発生件数:H29年度5件 実習中の事故、ケガ:6件(蜂2件含む) ・ヒヤリ・ハットの調査、整理、分析、注意喚起の徹底(1~2月)定期的健康相談を実施している。	・製造販売した「ボン菓子」に異物混入があり、告知、回収などの対応策を講じた。(12月) ・「日々の確認事項」を作成し、専攻実習の前後に注意事項を確認、徹底(5月)。 ・入学当初の交通安全・防犯講習の実施(4月)。 ・ <u>交通事故発生件数:H30年度8件。</u> ・ <u>実習(授業)中の事故・ケガ:7件。</u> ・ <u>長期休暇前の講習会等による注意喚起強化</u> ・ <u>毎週末のHRでの注意喚起</u> ・ヒヤリ・ハットの調査、整理、分析、注意喚起の徹底。 ・防火・避難訓練の実施(本校男子寮、女子寮、飯南寮:4月)。 ・避難訓練・消火訓練(消火器・消火栓)の実施(林業科10月) ・女子学生対象の防犯・護身術講習会の実施(1月)。	C	○商品管理の徹底を図る。 ○交通安全・防犯・健康維持への意識醸成を徹底する。 ○ヒヤリ・ハットの確認と分析、対策の徹底。 ○対応マニュアルの周知、徹底を図る。	・地震、台風など災害時の対応についての研修機会も設けた方が良いのでは。 ・4月に発生した島根県西部地震は、特に農大付近に被害が集中した。地震に備えた防災訓練も必要と思う。 ・女子学生の護身術講習の報道の仕方を考えるべき。手の内を見せるのはどうか。 ・台風時には外に出ないなども指導すべき。 ・農機具に操作取扱シールを貼る(前進、後進、走行、クラッチの入・切等) ・ボン菓子の案件は、製造者責任についてはいい事例となった。学生への理解を十分にさせ、今後活かしてほしい。
地域交流	地元小中高との交流、地域活動への参加	地元の保幼小中高の受け入れができたか。地域へ出かけての活動や地域との交流ができたか。	体験受け入れ、花育、食育、地域の催し等、色々な場面で地域交流に取り組んでいる。 H29年度:体験受入10校、223名。	【全体】 <u>法人協会青年部との交流(9月)、大田市農青連との交流(10月)、農業女子会交流(11月)</u> など新たな取り組み実施。 農大祭(7月)、農林大市場(11月)など農大でのイベント実施。 【2年生】大田ロータークラブとの交流による「石見銀山活動」の継続実施。 【有機】出雲市で開催される <u>オーガニックマルシェに6・7・11月に参加</u> し、有機農業への理解や消費者交流を積極的に進めた。 【野菜】あすてらす、 <u>村田製作所</u> におけるイベントや、地元の <u>高齢者福祉施設、柳瀬地区、波根地区の文化祭</u> へ参加。 <u>地元小学校1年生を対象</u> に、野菜(5品目)の特徴と栽培管理に関する授業を実施(1h)。 【花き】 <u>地元保育園児を対象とした花育</u> 、地元まちづくりセンター <u>成人学級を対象とした花活</u> の実施。地元小学校1年生を対象に生活科で花栽培(5品目)と花壇管理の授業を実施。 【果樹】 <u>ぶどう新品種の求評会を開催し、生産者だけでなく消費者への情報提供</u> し、卒業論文の内容についても情報発信を行った。また、 <u>農大祭で試作した干しぶどうを来客へ配布し、ニュースの聞き取り</u> を行った。 【肉用牛】 <u>農林大感謝市場(9月)</u> で牛肉と野菜の対面販売を実施し、消費者との交流を行った。地域農業者との連携で不作付水田の有効利用として2カ所、ならびに集落内の景観保全として1カ所、 <u>牛の放牧活用を実践</u> した。また、牛舎施設は地域の保育園児の散歩コースとなっている。 【林業】 <u>赤名湿地の保全活動</u> に参加。飯南寮生は、 <u>地域の赤名祭り</u> に参加。美郷町産業祭の丸太伐りに参加し入賞。 <u>荒廃林再生植栽活動</u> (飯南町:11月)。なお、積極的に地域活動を行っており、平成30年度 <u>島根県民いきいき活動奨励賞(ユース部門)に自己推薦</u> 。	A	○食育や花育、木育、「美味しまね認証」等の視点を大切に、引き続き地域交流活動に積極的に参加する。	・農業女子会などの取組は、女子視点を農業に取り入れる上で良い試み。卒業後の経営感覚にもつながっていくと思われる。 ・農林大生が小中高校や地域でアレンジメントなどの講座をするニュースはよく目にするようになった。地域に根付いていると感じる。卒論発表などの専門的な学習成果の一端を知ってもらおう試みがあってもよいのでは。 ・農大祭や農林大感謝市場の活況は、地元に着している証拠。さらなる取り組みをお願いします。 ・地元「おた子ども食堂」での学生ボランティアや食材提供などについて地域からの要望がある。食育や農林大のPRの観点から是非検討願いたい。 ・大田市中心交流のみならず、出身市町村にも出かけ、地域交流をした方が良い。
教育環境	圃場・施設・設備の充足度、機械・機器の充足度、維持管理、整理整頓、廃棄	農業機械、施設、機器の適切な管理運営が行われているか。実習棟、機械庫等は整理整頓がされているか。共有機械等の維持管理が適切に行われているか。農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われているか。	肉用牛専攻女子トイレとシャワー室の分離 高性能林業機械の更新 プレハブ女子更衣室設置の設置(野菜、花き) 飼料保管庫設置 果樹専攻ハウス修繕	・ <u>地震(4/9)被害の復旧:路面亀裂、寮入り口段差、壁、屋根など多数</u> ・ <u>肉用牛専攻プレハブ女子更衣室設置(7月)</u> ・ <u>学生移送のためのレンタカー試行。(9月1ヶ月間)</u> ・ <u>営農用ポンプ更新(2台:7、9月)</u> ・ <u>国道沿いへの学校名看板設置(1月)</u> ・ <u>街路樹、樹木が大木化しているため、伐採(12月)</u> ・ <u>コム保冷库新設(9月)</u> ・ <u>花き専攻調整室冷蔵庫更新(8月)</u> ○ <u>当面の課題</u> 【全体】ハウスや機械の修繕等で軽度なものはなるべく専攻の予算や実習の中で行っている。老朽化・経年劣化に伴い、機械、ハウス関連の機器等を中心に故障が増えており、当面は更新を要する事案が集中し、予算的に維持はますます困難になることが予想される。 【有機】鉄骨ハウスの側窓付け替え。防風ネット張り替え。 【野菜】農薬保管室の移設に伴い、資材・機械庫が手狭となっている。静電防除機(導入)、ミトマ選果機(導入予定)。 【花き】汲み取り式トイレの改善。 【果樹】地震被害によるハウスの修繕、早期成園化。 【林業】スイングヤーダ修繕必要。 <u>学生寮の確保(定員1学年10名・学生寮17室)</u> 等々	B	○予算等に合わせ、計画的な施設管理に努める。 ○施設の老朽化が見られ、必要に応じて施設管理者(西部県民センター)と協議しつつ機能維持に努めていく。 ○効果的なレンタカー活用	